

「地域を盛り上げ隊への道！」 ～大人も子どももワイワイガヤガヤ～

美郷町 君谷公民館

1 君谷地域の概要

(1) 立地

君谷地域は美郷町の端にあり、大田市と川本町に隣接する細長い地域である。人口307人、世帯数167戸、高齢化率57.3%の中山間地。

(2) 学校の状況

平成16年3月に君谷小学校が閉校、平成27年3月には保育所も閉所し、地域で子どもの声が響かなくなった。

(3) 地域の状況

細長い地形の影響か、以前はこの地域に2つの小学校があり、現在もその頃の校区意識が強く、それぞれが分かれて行事を行っている。

近年は連合自治会で養蜂組合を作り、地域おこし協力隊を受け入れ、養蜂事業に取り組んでいる。生産された蜂蜜も地域の特産になりつつある。

2 事業の趣旨

地域の小学校が廃校になり、地域住民と子どもたち、また、保護者世代の交流が少なくなった。地域の多世代間の交流活動を継続的に行い、お互いを思いやる気持ちを育み、一つの目標を達成することで団結力を高め、元気な地域づくりの原動力につなげる。

3 具体的な取組内容

(1) 夏休み交流会

夏休み期間中に3回、地域の老人会の一つ「万寿会」との共催で実施した。参加対象は、君谷地域と隣の別府地域の小学生と保護者、老人会の会員。

ア 第1回 (7月22日)

(ア) ミニトマトの収穫

5月末に「万寿会」がミニトマトの苗を植え付け、管理してきたものを子どもたちが収穫、試食した。

(イ) 竹箒づくり

万寿会の指導で、子どもたちが竹箒をつくった。竹材の準備も万寿会が行った。

(ウ) 調理実習

地域の食生活改善推進委員の指導で、子どもたちが調理実習をした。作った料理は、交流会の参加者でいただいた。

イ 第2回 (8月2日)

(ア) はちみつ味比べクイズ

君谷地域連合自治会の養蜂組合に所属している地域おこし協力隊が、8種類の蜂蜜を準備して蜜源を当てるクイズをした。

(イ) ふれあいゲーム

島根県の「ふるまい推進指導員派遣事業」を活用し、指導員によるゲームをした。

ウ 第3回 (8月19日)

(ア) そば打ち体験

地域活動コーディネーターの指導で、そば打ち体験をした。そば粉は、前年、連合自治会の養蜂組合が蜜源確保と景観保持のために作ったそばを使用。

(イ) ひまわり迷路

地域活動コーディネーターと地域おこし協力隊が、この日に向けてひまわり迷路を作った。クイズも仕掛

けてあったので、子どもたちは駆け回っていた。

(ウ) そうめん流し

交流会の中で、子どもたちのテンションが一番高くなる催しである。いろいろな食材が流れて来る度に歓声があがった。竹材、食材の準備は万寿会が行った。

(2) みんなでスタードームを作ろう！

3年計画で企画した事業の最終年。1年目から地域の青年団の協力を得て実施している。年を追ってドームのサイズを大きくしていき、今年は直径5mにもなる大型ドームをつくった。参加対象は、君谷地域の小中学生とその家族。今年は、高校生ボランティアを募集し、地域の方にも声を掛け、協力してもらった。総勢22名が参加した。



星型が出来るように竹を組んでいく

ア 大型ドーム作成

長さ4m程の竹を、竹割り器で割るところから始めた。割った竹に、ドリルで穴を開けるための印を付ける。開けた穴に、針金を通して竹を繋ぐ。繋いだ竹を順に組んでいく。組み上がったドームに、イルミネーションの電球を取り付ける。同時に、昨年作ったドームの修復作業をした。

イ スターボール作成

一人ひとりが竹ひごで直径20cmのボール状の竹細工をつくった。

ウ 野外炊飯

今回初めて野外炊飯に挑戦した。羽釜と竹筒でご飯を炊き、大鍋でカレーを作った。食材切りやサラダづくりも野外で行った。

エ イルミネーション点灯

暗くなる前に、大型ドームに取り付けたイルミネーションを点灯。それぞれで作ったスターボールは広場に点々と置き、LEDでライトアップ。修復した昨年のドームも、広場に点在させた。夕食を摂りながら、段々と浮かび上がる灯りを鑑賞した。

4 評価と成果

数年を掛け、より多世代の交流が進むよう活動を改善していき、目的の達成度が高まってきた。交流会で子どもたちとふれあえることで、高齢者は元気をもらっている。

活動への協力団体(青年団、老人会)のスタッフが、事業に好意的である。主体的に関わる姿勢が見られ、次の活動への意欲が高まってきた。

これらの活動を通して、スタッフだけでなく地域住民自身も地域のことを考えるきっかけになっている。

5 今後の課題と見通し

今後更に子どもの数が減ってくる。交流会等の事業の開催も困難になることが予想される。参加対象者の範囲を広げる、事業の内容を子どもと大人の両方が興味を持てるものにするなどの工夫が必要だ。

開催日についても調整が難しく、ほとんどの子どもが加入しているスポーツ少年団や、家庭との連携も必要となってくる。

今後の見通しとしては、今、意欲的になっている協力団体が自主的に活動を始めていくことを期待している。その活動を、公民館が支援するかたちで事業を進めていきたい。

(文責：主事 岩谷美由紀)